

内容項目名 家族愛 (内容項目 4－(6))

資料名 「家族にまつわる三行詩」(出典『明日への扉』千葉県教育委員会)

高等部 1 年 道徳学習指導案

1 学習指導案

(1) 主題名

家族への感謝

(2) ねらい

家族に対する感謝の気持ちを育て、家族とのかかわり方や家族の一員としての自己の役割について考えようとする態度を養う。

(3) 主題設定の理由

家族は一番身近な存在であり、特に障害のある生徒にとって、その絆や支えは非常に大切なものである。しかし身近であるがゆえに、ともすればその存在や支えが当たり前のものになってしまい、家族のありがたさや、いかに自分が大切にされているかということを改めて意識することは少ない。また、感謝の気持ちはあっても、それを言葉や行動で表現することには照れや恥ずかしさを感じる年齢でもある。しかし、家族に何かをしてもらうだけではなく、家族に何をしてあげられるか、自分なりの自立について考えることは、今後社会に出ていく上でも大切であると考ええる。

そこで今回は、家族への思いを素直に表現した詩に触れることで、家族という存在について改めて考え、家族への感謝の気持ちを喚起する、あるいは再認識するきっかけとしたい。そして家族のために何をしたいか、何ができるかを考えることで、家族の一員としての自己の役割に気付くことを期待して本題材を設定した。

(4) 展開

	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1, 家族とのかかわりを振り返る。 家族がいてよかったと思うときは、どんなときですか。	・悩みを聞いてくれたとき ・励ましたり、応援してくれたりしたとき ・風邪や病気の時	○スムーズに発表できるよう、事前にワークシートを配布しておく。
展開 (30)	2, 家族に対するそれぞれの思いや考えを共有する。 家族にまつわる三行詩の中から、気に入った詩の共感できるところや感想を発表しましょう。	・家族への気持ちが素直に表れている。 ・家族とけんかすることもあるけど、やっぱり好きだと思う。 ・気持ちはわかるけど、こういう詩にするのは恥ずかしい。	○事前に詩を読む時間と感想を書く時間を設けておく。 ○発表内容を板書し、互いの考えがわかるようにする。

	3, 家族とのこれからのかかわり方について考える。 家族に対する思いを形にするにはどうしたらよいでしょう。家族のためにできることを考えてみましょう。	・家族に喜んでもらえるようなことを考える。 ・お金をためて、好きなものを買ってあげる。 ・家事を手伝う。 ・自分でできることは自分でする。 ・「ありがとう」と言葉にして伝える。 ・心配をかけないようにする。	○話し合いがしやすいよう二つのグループに分け、友達の意見を参考にできるようにする。 ○今だけではなく将来のことも視野に入れ、どのように生活していくことを家族が望んでいるか考えるよう言葉をかける。 ○出た意見を認め賞賛しながら、自分なりの「自立」を目指すことや、自分自身の幸せが家族のためになることにも触れる。 ○家族の思いを感じ取ることができるよう、ゆっくりと静かな雰囲気を読む。
終末 (10)	5, 本時の感想を書く。 家族からのメッセージやみんなの意見を踏まえた上で、気づいたことや感じたことを書いてみましょう。	・普段、あまり意識しない家族のことを考えることができた。 ・家族の気持ちがわかってよかった。 ・これからも、家族を大切にしていきたい。 ・いろいろな人の考え方がわかった。	○文章にまとまらなくても、感じたことを率直に発表するよう言葉をかける。 ○何かをしてもらうだけではなく、何かをする立場になるという、家族の一員としての役割につなげる。

(5) 他の教育活動との関連

本学習の前、国語総合の時間に「島の少年」という小説の学習をした。話は、母方の祖父と6歳の妹と小学校6年生の主人公の3人家族（父は6年前に家を出、母は1年前に亡くなったが、そのとき、妹が父の子ではないことを知る）の人間模様が描かれている。複雑な家族の中で小学6年生の主人公が祖父と妹を養っていく決意をする、という内容を通し、自立、家族の絆について考えた。

2 事後検討会

(1) 授業記録

- T 家族にまつわる三行詩の中から、気に入った詩の共感できるところや感想を発表しましょう。
- S 1 〈資料〉②自分も小さいころ母に頭をなでてもらったとき、安心して温かい気持ちになった。
- S 2 〈資料〉④あいさつはコミュニケーションのひとつで、家族が仲良くなれる。
- S 3 〈資料〉③妹に身長をぬかされたときは悔しかったけど、妹はかわいい。家庭菜園に自分と妹を重ね合わせてみた。
- S 4 〈資料〉①「私がつぐその日まで」というところにジーンときた。家族の応援でがんばろうとしている。
- S 5 〈資料〉⑮父親とのコミュニケーションって面倒くさいけど、心がスカッとする。
- S 6 〈資料〉⑮父親が「どうだった？」と思って聞いてくれることがうれしい。
- S 7 〈資料〉⑦思ってもなかなか言えないことがある。
- S 8 〈資料〉⑬親がいないとつぶやけない言葉だと思う。
- T 家族に対する思いを形にするにはどうしたらよいでしょう。家族のためにできることを考えてみましょう。



〈グループ討議：代表生徒2名の発表〉

- S 1 ・家事をしたり、自分で出来ることは自分でして、家族に負担をかけないようにする。
・自分のがんばっている姿を見せて（例：スポーツ大会で1位をとる。）家族を元気にする。
- S 2 ・思ったことは口に出して伝える。
・車の免許をとって、家族旅行に連れていく。
・きちんとする。仕事に就く。そうすれば家族が安心する。
- T みんなのお父さんやお母さんに、みんなへのメッセージを書いてもらいました。みんなに対する家族の思いを聞いて見ましょう。

〈家族からの手紙〉

- P 1 これからは、人に指示されることを待つのではなく、自分から進んで考え、今まで経験しなかったことに挑戦してください。そして、得意なことは積極的に伸ばし、新しい目標に向かって進んでください。
- P 2 自分に責任を持ち、自分の人生に悔いを残さず楽しい人生を送ってほしい。「最後に、パパに勝てる男になれ！」
- P 3 心を強くもってほしいです。望む姿は、元気で生きてくれればいいです。
- P 4 気持ちの優しさ、礼儀正しさ、他人への思いやり等、〇〇はすばらしいものを持っていると思います。この心は社会人になっても重要です。是非自分の良いところに自信を持って「世の中に役立つ人」に成長してもらいたいと願っています。
- P 5 高等部に入学してから、親からの自立に芽生えたように思います。何事にもチャレンジする意欲を今後も期待しています。そして、ポジティブに何事も考えられる、持って生まれた性

格を一生持っていてもらいたいと思います。家族を明るくさせる性格を持ち続けてもらいたいと思います。

P 6 ○○には女として、母として教えられることがたくさんありました。「ありがとう！！」感謝の気持ちでいっぱいです。これからも「思いやり」と「優しさ」を忘れず、持ち前の「強気！」で自分の好きな道へ進んでいってほしいです。母はいつも一歩後から応援しています。

P 7 私が今まで読んだ本の中で、とても感動した言葉があります。それは「置かれた場所で咲きなさい」というものです。誰でも何歳になっても、思うようにならないときや辛いときに、人や環境のせいにしてしまいがちです。でも、自分の置かれた現実を受け入れ、自分なりに自分の時間を精一杯生きて笑っていけたら、自分も周りの人も幸せな気持ちになれると思います。私にも簡単なことではないけれど、こんなふうに成長してくれたらうれしいです。

P 8 今まで、いろいろがんばって来ましたね。そして、これからも障害を抱えて社会に出ていかなければなりません。何度も壁にぶつかり、悩むこともあるでしょうが、1つ1つ前へ進みましょうね。家族みんなで見守っているのです、あなたの出来ることを見つけ、自分らしく生きてほしいです。笑顔で充実した毎日が送れることを願っています。

(2) 授業の感想

(生徒・保護者・本校職員・開かれた学校づくり委員会委員・県内特別支援学校職員)

〈生徒の感想〉

- ・家族のありがたさがわかった。
- ・家族はみんなの心の支えになっているのだと思いました。家族の手紙は感動しました。どこの家も子どものことを大切に思っていて、家族のありがたさがわかりました。
- ・「家族を安心させる」とか「心配をかけない」ということをあまり考えたことがなかったので、友達の意見を聞いて、これから少しずつ考えようと思った。
- ・お母さんの思いがよくわかりました。でも、家ではついついワガママを言ってしまいます。
- ・家族に対して、自分が今できること、すべきことを友達といっしょに考えて、話し合いが出来て参考になった。
- ・自分の家族がいる前で家族のことを発表するのは少し照れくさかったですが、みんなの家族との関係がとても温かいものだと思って、素敵だなと思いました。私も家族のことをこれからは大切にしようと、改めて考えさせられた時間でした。
- ・家族は大切だな、と感じました。ドキドキしましたが、友達の話を聞くことができてよかったです。これからは家族を大切にしたいです。道徳の時間はとてもいい時間です。自分の気持ちを素直に話せるからです。

〈保護者の感想〉

- ・普段はお互いどんなふうに考えているかなど、話す機会がないので子どもたちの気持ちが聞けてよかったです。
- ・道徳のようないろいろな意見が出る場面では1・2組合同で人数が増えるのはとてもよかったです。友達の話を聞いて、いろいろ感じたり考えたりしてくれたらいいな、と思います。
- ・改めて、わが子の成長を確認できた気がしました。
- ・今日の授業の保護者からのメッセージには感動した。それに対して、生徒がどう思ったかの感

想を聞いてみたかった。

- ・年頃の生徒が自分の意見を言えるのかと心配していたが、よく発表できていた。先生との信頼関係が上手くいっているからこそ、きちんと言葉に出せるのではないかな。温かい気持ちになる授業であった。

〈参観者の感想〉

- ・三行詩が効果的だった。道徳で読み物教材を使うと国語の授業のようになりがちだが、上手く生徒の気持ちを引き出していた。詩を通して自分の家族について考えるよい導入であった。三行詩は普段言葉には出せないことを表現するための『ツール』なのかも知れない。
- ・小・中でも可能な題材だと思った。積み重ねていけるものだと思った。
- ・教師自らの考え・想いやエピソードを交えながら授業を展開していったことは、生徒自身がこのテーマをより身近に感じながら、真剣に考えようとする動機づけになったのではないかなと思う。
- ・ワークシートを使うことで、生徒が自分の意見をまとめ、分かりやすく伝えることができていた。
- ・保護者参観の日でもある日に、家族について採り上げ、生徒たちも身近に感じながら授業を受けることができ、よい題材だと思った。
- ・保護者も参観している中で、生徒が自分たちの意見を素直に発表できていた。教師が生徒たちの意見を拾って、また周囲の生徒たちに返していくことで、多くの意見を引き出せていた。生徒と先生との信頼関係が感じられる温かい授業だった。
- ・家族について他者に素直に話したり、自分を振り返ったりすることは、あの年頃の子どもたちには照れくさいことが多いが、心の中で思うだけでなく、言葉にして聞いてもらうことは大切だと思った。
- ・自分の意見が言えない生徒も、他の生徒の意見に頷く様子が見られた。
- ・家族についての意見が素晴らしかった。家族への思いが本当に深かった。この部分だけを深めた展開でも良かったのではないかな。
- ・家族からのメッセージを聞く生徒の表情がとてもよく、心に響いているようだった。
- ・家族の方からのメッセージを紹介した時の心の変化を、生徒の表情から教師がよく見るとよいと思った。
- ・子どもたちから家族に対する思いと、家族から子どもたちに対する思いの両方が聞けたのがよかった。
- ・家族の方からの手紙の内容があまりにも感動的で心を打つものだったので、最後に紹介して終わってしまうのはもったいないと感じました。家族からのメッセージに対して感想を書くという活動が次時になってしまったのが残念です。
- ・感想を書く活動は家で行うほうが、素直な意見が出るのではないかなと思います。（結果的によかったと思います。）
- ・知的障害を対象とした特別支援学校では、今回のような授業展開は難しい。また、生徒たちの家庭状況によっては、この題材を扱うことが難しいと思いました。

- ・道徳もキャリア教育も教師が意識することが大切であることを実感した。
- ・家族とのこれからの関わり方を考える時、2グループに分かれて話し合いをしたが、普段から話し合い活動は取り組んでいるのですか？
→1組4人の授業では、2人組に分かれて話し合いをする活動を行っている。1．2組合同の授業は今回の道徳が初めて。もう少し話し合いのポイントや手立てを示せると良かった。



3 本事例の活用に関する留意点

(1) 事前指導

本生徒たちに、中学部卒業間近の学級活動の時間に「義務教育を終える一つの節目の時期に、家の人へ感謝の気持ちを表す手紙を書こう」という時間を設けた。そのとき、東日本大震災の後流れたA CジャパンのCM、宮澤章二氏の「行為の意味・青春前期のきみたちに」の詩の全文を紹介した。『(略) 自分にも他人にも「こころ」は見えない。けれど、ほんとうに見えないのであろうか。確かに「こころ」はだれにも見えない。けれど「こころづかい」は見えるのだ。

(略)』「手紙を通して思いを“言葉という形”にして贈るのも、ある意味、一つのこころづかいかなと思う。」と話し、卒業式の最後の学活の前に手紙を渡す、サプライズを計画した。教師も見ないので“飾らない手紙”“本音の手紙”にしてください、という約束をしたので内容はわからない。卒業式の日の帰りの学活で手紙を渡したときの表情はうっすら涙目になっていたように見えた。

(2) 保護者参加型の授業

今回の保護者からの手紙は上記の返事という意味もあり、また、保護者にとっても日頃言葉にして言えない思いを伝える機会になれば、と考えた。家族を思う子の気持ち、子を思う家族の思い、それを伝えるには教師を仲立ちに（授業などで扱ったり）するのがよいと考える。

(3) 事後指導

家族からの手紙に対する返事を書く、というのはくどなるので行わなかった。また、家族にまつわる三行詩を書くのも国語の授業になってしまう危険性があったので行わなかった。温かい家族愛に満ちた民話・物語などの読み聞かせを、折に触れ行いたいと考えている。

〈資料〉

★「明日への扉」千葉県教育委員会 [13] 家族にまつわる三行詩

◎ P44 ～ P47 の 1 2 の詩に便宜上①～⑫の番号をふった。

(以下生徒が心に残った詩として挙げたものを掲載)

P44 ①「大津波……」

②「そっと頭をなでる母の手が……」

③「家庭菜園……」

P45 ④「 ちょっとのがまんは？「幸せの素」……」

P46 ⑦「いつもうるさいお母さん……」

★平成24年度「楽しい子育て全国キャンペーン」～親子で話そう！家族の絆・我が家のルール～

⑬ “腹へった”
親がいるから
つぶやける

⑭ やれるかな？
やれるよ！やれる！と母の声
その気になってがんばる私

⑮ 父さんがいつも言う 今日の学校どうだった
毎日聞かれるこの一言
めんどくさいけど ありがたい

⑯ 誤字脱字
それでも嬉しい
子の手紙